

和田幼稚園の運営方針

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全・安心な園づくり 子ども達が楽しく安心して園の生活ができるように日常の安全管理や避難訓練など防犯体制の充実を図り、安全で安心な園づくりを推進する</li> <li>2. 幼児教育の更なる充実 通常の教育のほかに、筆遊びや英語遊び、お茶遊び、運動遊びなどの補育を導入して教育の更なる充実を図る</li> <li>3. 人間形成の基礎づくり 義務教育の基礎を培うと共に、挨拶や礼儀・作法など基本的な生活習慣が身につくように指導し、人間形成の基礎づくりを推進する</li> </ol>
---

和田幼稚園の教育目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「あかるく、たくましく、考える創造性豊かな子」を育むことを目標に、ひとり一人のかかわりを大切にす</li> <li>2. 自然を営む環境の中で、多様な経験や体験を通して、心身とも成長、発達を促す</li> <li>3. 正しい生活習慣を身につけ、人間形成の基礎を培うことを目標とする</li> </ol>
--

本年度の重点目標	「よく学び よく遊び よく関わる」 子どもたちが自分で考え、工夫し、学んでいける環境づくり(人的環境、保育環境)の時間、空間、人間の環境、保育環境の外的環境の見直し、年間指導計画等の内的環境の見直しと積み重ね
経営の重点	職員が働きがいのある職場づくり(カリキュラムマネージメントによるPDCA) 保育の質の向上(指導力、子ども理解の向上、マネージャメント力、リーダーシップ力) 保護者が子ども理解、幼稚園への理解を深めていく(HIP等)による情報提供、子育て支援(講演)等)
教育の重点	年間指導計画、週案の作成(新幼稚園教育要領、新保育所保育指針参照) 教育要領に沿った「遊び」の時間 特別支援教育

評価項目		理由
項目	内容(取組み)	評価
1. 学園の将来ビジョン	<p>本園の目指す方向を確認しながら保育を進めていく。各学年のリーダーを中心に、指導計画や記録の作成に際して、常に本園の保育の原点(あかるく、たくましく、かんがえる)を確認し合う。</p> <p>(具体的な目標や取組) ●和田幼稚園 幼稚園経営要綱の作成 ●年度初に全職員での研修を行い、園の理念の確認を実施する ●認定こども園教育保育要領の改訂点</p>	2018年4月から認定こども園教育保育要領の改訂に伴い、本園の保育の原点との相違点や共通点、いまからの幼児教育について短い時間ではあるが、職員と対話をする事ができた。
2. 教育課程・指導	<p>年間指導計画の作成(「健康」「人間関係」「環境」「言葉」表現の各領域において、「ねらいと内容」を踏まえた活動を行う) -子どもの発達段階、子どもの理解を踏まえて、年間指導計画、カリキュラムを作成する -10の姿を意識した指導要録、保育計画を作成</p> <p>(具体的な目標や取組) ●年間指導計画の作成、月間指導計画の作成 ●10の姿を意識した指導要録</p>	職員が2018年4月から認定こども園教育保育要領の改訂して、10の姿を意識して指導要録を作成している。保育計画や指導計画については、前年度の行事や活動を踏襲しているものもあるが、職員自らマネージャメントし、こども理解をしながら、保育実践を行う姿をみることができている。
3. 保健管理	<p>感染症については、保護者に情報展開し、疾病予防や拡大防止に努める -5月末に健康集会で、手洗い・うがいについて養護教諭から説明してもらう</p> <p>(具体的な目標や取組) ●保育園棟、幼稚園棟の玄関に感染症の情報を掲示 ●携帯アプリで、本日の感染症情報を確認できる</p>	感染症の情報を展開することによって、保護者の感染症の予防に対する意識が高まったと感じている。また、こどもたちについても、日頃から手洗い・うがいを守りながら、自分の健康を自分で守る姿が見られた。また、水遊び時に、監視係を設け、安全管理を行った。
4. 安全管理	<p>(具体的な目標や取組) ●避難訓練実施計画 ●防災教室・防犯教室・交通安全教室 ●安全点検(園外・園内)を実施</p> <p>特別支援教育への理解と実践</p>	<p>防災意識を高めようと、定期的な避難訓練とは別に、消防署見学を通して、地震や台風、火災体験を年少・年中・年長児が体験した。仮想の体験ではあるが、園児自身で「震度5とは」「台風の最大風速45mとは」実際に感じることで、防災意識を高めることができた。</p> <p>園内の安全点検を怠らず、危険な箇所がないか次年度も継続して行う。</p>
5. 特別支援教育	<p>(具体的な目標や取組) ●特別支援コーディネーターを指名する ●臨床心理士による研修</p>	7月までは臨床心理士の先生を連携をとりながら、保育者と協働して研修や対話を重ねながら実施できた。8月以降は臨床心理士の先生からの連絡が得られず、なかなか支援の子の対応にむずかしさを感じる内容になってしまった。今後も篠栗町との連携を図りながら、保護者に園の様子を伝えてい

6. 組織運営	<p>園の組織運営の機能化</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 主任会議を実施(職員会議月1回)</li> </ul>	C	<p>園務分掌をすることで、一人ひとりのリーダーシップを発揮できる機会を設けていこうと試みた。2020年度には主任を置き、園務分掌など組織運営ができるようにしていく。2019年度に主任の役割等を確認し、整理する必要がある。研修等で確認していく。</p>
7. 人材育成 研修・研究	<p>研修等に積極的に参加し、自己研鑽をし保育の質を上げる園内研修により、情報の共有、子どもたちの様子、環境構成を考えたい</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● キャリアアップ研修</li> <li>● 園内研修の充実</li> </ul>	B	<p>平成30年度からキャリアアップ研修事業が始まり、職員にも積極的に参加してもらった。園内研修では、事務的な連絡や行事の話が中心で、子ども理解や保育実践の課題に取り組むことができなかった。キャリアアップ研修を生かしながら、職員間で話し合う場を設けていきたい。</p>
8. 教育目標学校評価	<p>保護者の意見・要望の実現(6月に在園児にアンケート実施)</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 6月に在園児にアンケート実施</li> <li>● 3月に在園児にアンケート実施</li> <li>● 学校評価・自己評価(3月)</li> </ul>	C	<p>保護者の意見や要望を吸い上げるために、6月に一回、3月に一回、保護者とともに振り返り、2019年度に反映させる。</p>
9. 情報提供	<p>情報発信(ハスキャッチにより、欠席出席連絡等で、保護者からの連絡を一斉管理)</p> <p>ホームページ、連絡メールにて情報発信を行う</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 携帯アプリでの保護者への連絡(行事、緊急)</li> <li>● 一ヶ月に一度担任からクラスだより</li> <li>● ホームページでの行事での子どもたちの姿を発信</li> </ul>	A	<p>ハスキャッチにより、電話による連絡による連絡事項のミスが少なくなった。また、保育の振り返り(毎日の評価)を共有できるようになった。また、保護者にも写真を用いて、クラスだよりで子どもの様子を伝えることができるようになった。ホームページを使い、保護者や入園希望の方にも幼稚園を理解することに繋がっている。</p>
10. 保護者・地域との連携	<p>臨床心理士の方から子育てについての講話を計画</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の方をホランテイクで(預り保育など)</li> <li>● 園の行事等への保護者参加(保育研究、運動会、発表会、なわとび大会、(お別れ会、卒園式(年長児))</li> </ul>	C	<p>保護者会を縮小し、保護者会による行事参加をなくした。保護者会を縮小することで、保護者からの声が少ないことは否めない。保護者からの声をどう吸い上げて、保育や行事に活かしていくのかが今後の課題である。保護者会で一部の保護者だけ行事の様子を見る機会があったが、今後は公平に日頃の保育を伝えていく必要がある。</p>
11. 子育て支援	<p>保育園児・幼稚園児の人数の増加に伴う預り保育環境の見直し</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 臨床心理士の方から子育てについての講話を計画</li> </ul>	D	<p>臨床心理士による子育ての講話を予定していたが、実施には至らなかった。次年度はお話会の先生や子育てについての講話を夏季休み中に計画したい。</p>
12. 預り保育	<p>保育室の環境や園外環境を見直す</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼稚園棟に場所を移動する(幼稚園居残り30人保育園30人)</li> </ul>	B	<p>保育園児と幼稚園児を分けることで、子どもたちにとって十分な空間を確保することができた。預かり保育担当の先生との連携、保育園児の年長児の昼寝等の課題に取り組んでいく。</p>
13. 教育環境整備	<p>保育室の柵を子どもたちが見通しかもてるように配置したことにより、子どもたちが気づき、整理整頓の意識が高まったように思う。</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 園児柵を入れ替え目で見てわかるように</li> <li>● 年少児の教室の机・椅子を交換</li> <li>● 運動場のコンクリート部分を砂地ににする</li> </ul>	B	<p>また、年少児の机と椅子を子どもたちの体位に合うものにするなどで、活動等を子どもたちがストレスなく行えている。</p>
14. 職員のメンタルケア	<p>今年度は職員の声を聞く機会を設けることができなかった。ヒアリングを実施し、職員と話す時間を2019年度は設けていく。</p> <p>(具体的な目標や取組)</p>	D	
総合評価	<p>理 由</p> <p>全体的な計画の重点目標である「よく学び よく遊び よく関わる」の中で、子どもたちが自分で考え、工夫し、学んでいくことを心掛けて一年間環境づくりをしてきました。遊び時間が前年度から増えたことで保育者が子どもたちに遊びを提供したり、子どもたちが様々な遊びを展開する姿を見ることができた。また、様々な玩具を準備し、コーナー保育をしたり、子ども理解を深めながら、保育者と子どもと共に生活を進めることができた。2019年度は遊びの質、保育者のねらいを持ちながら、遊びの量と質を上げていく環境づくりをしていく。</p> <p>地域社会・保護者の連携、子育て支援、特別支援教育、教育環境整備(園庭)、園舎増築などを検討していく。</p>	B	